

消防トピックス

地域防災力の充実強化に向けた挑戦 ～学生団員の入団促進及び南海トラフ巨大地震対策～

北九州市小倉南消防団

1 北九州市小倉南消防団の紹介

(1) はじめに

北九州市小倉南消防団では、小倉南消防署と連携しながら、地域特性を踏まえた独自の取組等様々な消防団活動を展開しています。

(2) 組織の概要

小倉南消防団は、福岡県北九州市の南東部に位置する小倉南区を管轄しており、平成29年2月1日現在、14分団13支部、消防団員数441人(うち女性消防団員26人)、で組織され、消防車両28台(指揮車1台、ポンプ車14台、小型ポンプ積載車13台)を保有しています。

<福岡県北九州市小倉南区の位置図>



(3) 災害発生状況

小倉南区は、度々、自然災害による大規模な浸水被害が発生しており、近年では、平成11年9月、台風第18号の高潮災害で、市内において、全半壊・床上浸水約420世帯、死者2人等、甚大な被害を受け、災害救助法が適用

されました。



平成11年に発生した高潮災害

平成28年2月に公表された「福岡県南海トラフ巨大地震・津波被害に関するアセスメント結果」では、小倉南区は約520ヘクタールもの広範囲にわたる浸水が予測され、多くの住民被害が予想されるため、住民避難等の防災体制の確立が喫緊の課題となっています。

一方、火災においては、平成28年中の本市における住宅火災での死者は11人で、そのうちの7人が高齢者で、市全体の高齢化率も高いことから小倉南区も含め、住宅火災による高齢者の犠牲をいかに防ぐかが大きな課題となっています。

2 地域防災力の充実強化に向けた挑戦

(1) 『大学祭』等で若い世代の入団促進!!

併せて、住警器・未設置高齢者ゼロの取組み!!

小倉南消防団員の平均年齢は、平成28年4

月1日現在43.0歳で、全国平均を2.5歳上回っており、組織の若返りを図っていくためには、若い世代の入団を推し進める必要があります。

そこで、小倉南区にある北九州市立大学に申し入れ、大学祭において「消防団員入団促進ブース」を設け、消防団PRビデオの放映、活動パネルの展示などに加え、地震体験車や煙体験テントを設置して、消防団員の募集を行いました。

また、この募集では同大学の「防犯・防災プロジェクト」の学生(28人)も一緒に入団促進ブースを運営したことによって、より多くの学生に消防団の加入をアピールすることができました。

その結果、5人もの大学生が入団し、早速、新戦力として活動を始めるなど、消防団をあげての若い世代の入団促進の取組は確実に結果を出し始めています。



大学祭で入団促進ブースを設置



防災関連サークルの学生が入団募集

さらに、大学祭や地域の祭りでの入団促進PRブースにおいて、チャリティーバザーを行い、その収益で平成27年から28年の2年間で住宅用火災警報器96器を購入しました。

購入した住宅用火災警報器は、地域の実情や高齢者の福祉に精通した社会福祉協議会及び民生委員・児童委員協議会の協力を得て、区内の住宅用火災警報器未設置のひとり暮らしの高齢者宅に設置しました。



住宅用火災警報器贈呈式 (団長・社協会長)

(2) 津波・高潮災害等から「住民を全力で守る」地域に精通した消防団の取組!!

南海トラフ巨大地震・津波被害に関するアセスメント結果(以下「アセスメント」という。)の発表直後から、小倉南消防団内に警防委員会を設置して、様々な南海トラフ巨大地震対策に取り組んできました。

① マニュアルの作成及び研修の実施

総務省消防庁から発出された「津波災害時の消防団員の安全確保対策について」の通知に基づく、「北九州市震災消防計画書」等に加え、小倉南区の特性等を踏まえた、「北九州市小倉南消防団地震・津波災害発生時における消防団活動・安全管理マニュアル」を作成しました。

このマニュアルには、東日本大震災における消防団員の公務災害の状況と原因、その他、

消防団活動に参考となる各種データも掲載するなど、消防団員の安全に重点を置いたものとなりました。

② 全団員でマニュアル研修を実施

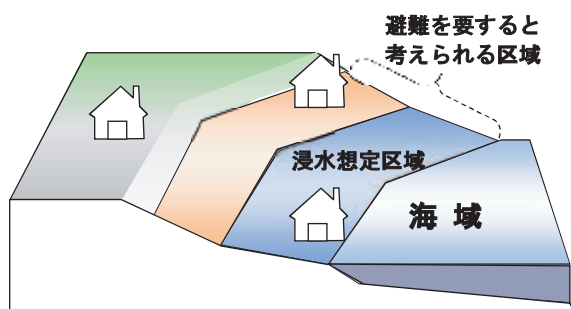
マニュアル作成後、平成28年7月に小倉南生涯学習センターにおいて、全消防団員で本マニュアルの研修を実施し、災害発生時の行動等を確認しました。

③ 住民避難誘導及び避難広報ルートの検討



図上で住民避難誘導ルートを検討

避難誘導や広報ルートを検討する際には、浸水想定地域はもとより、標高や地形を考慮し、予測上は浸水しないが予測の不確実性を考慮すると浸水の恐れがある地域を確認しました。



また、防災スピーカー及びモーターサイレン等の音達範囲（音が聞える区域）を確認しました。



その他にも、アセスメントに基づく河川の津波遡上予想範囲や、橋梁等の耐震化の有無、避難行動要支援者宅、高台の住民避難場所、夜間の避難も考慮し、夜間照明等が設置されている道路等防災対策に必要と考えられる事柄を確認して、避難誘導や広報ルートを検討しました。

そして、この避難誘導及び広報ルートの各分団の活動可能時間を積算し、津波到達予想時間までに消防団員が巡回できるかを確認し、最終的にルートの選定をしました。



更に、浸水想定地域内の分団は、高台の他の分団庁舎等に避難・移転し、防災拠点としての機能を保持することとしました。

④ 津波災害を想定した大規模な住民避難訓練を実施

平成28年9月1日の防災の日に、浸水想定地域の住民による大規模な津波避難訓練が行われました。その際、消防団が事前に地図



上で検討した避難誘導及び広報ルートに基づく訓練を実施しました。

また、避難訓練後、参加住民に避難上の注意点、応急担架の作成法及び搬送要領、AEDの取扱い要領などを紹介しました。



応急担架の作成方法を紹介

⑤ 浸水想定区域の地域住民等と「DIG (災害図上訓練)」を実施

消防団員がリーダーになり、浸水想定区域の地域住民等とDIGを行い、避難経路を確認し、災害発生時の連絡体制、避難行動要支援者等の共助体制等を検討しました。



災害図上訓練DIG

⑥ 避難行動要支援者宅等への防火防災訪問

小倉南消防団では、女性消防団員による従来の防火訪問に『防災』という視点を取り入れ、独自に避難行動要支援者宅等を訪問対象に加えた住宅防火訪問を実施しています。



避難行動要支援者宅等への防火防災訪問

この防火防災訪問は、防火に加え、避難時の近隣への共助体制の確認・依頼をはじめ、家具の転倒防止の確認、高齢者等の非常持ち出し品の紹介等を行っています。



3 あとがき

近年、大規模な地震・津波、大火などが発生し、住民の安全・安心に対する関心が高まっており、消防に対し地域住民から大きな期待が寄せられています。

このような中、小倉南消防団において、「住民の安全・安心のために何が必要か」を全団員で考えるため、消防団内に予防委員会や警防委員会を設置し、南海トラフ巨大地震対策や高齢者住宅防火対策等に取り組んできました。

今後も、地域住民のニーズという視点を重視しながら、全力で地域の消防防災体制の充実強化を推進していきたいと思ひます。